

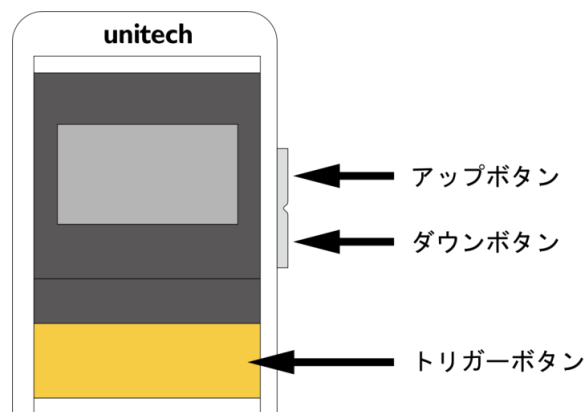
# MS916/MS926 照合機能の操作方法 Ver. 5.1

照合モード(Data Validation)では1対1、1対NおよびLookUp テーブル参照によるバーコードの照合を行います。照合したバーコードは一致したデータのみをホストに送信またはメモリに保存します。

## 照合機能の設定手順

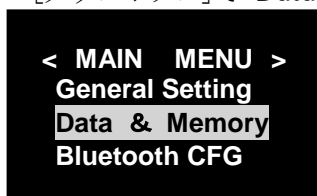
### (1) <MAIN MENU> 画面起動

[トリガーボタン]を2秒間長押しして電源を入れ、本体側面の[アップボタン]と[ダウンボタン]を同時に押し“<MAIN MENU>”画面を立ち上げます。



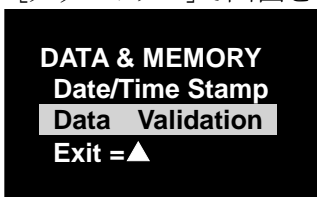
### (2) Data & Memory 画面移動

[ダウンボタン]で“Data & Memory”を選択し、[トリガーボタン]を押下します。



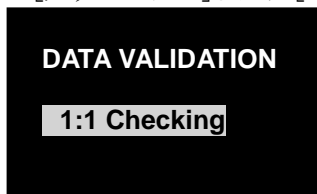
### (3) Data Validation 画面移動

[ダウンボタン]で画面をスクロールし、“Data Validation”選択後に[トリガーボタン]を押下します。



### (4) 照合オプション選択

[ダウンボタン]または[アップボタン]で照合する方法を選択し、[トリガーボタン]を押下します。



照合オプションを以下の3種類から選択します。

照合オプション	詳細	部分一致
1対1 (1:1 Checking)	照合元バーコードと照合したいバーコードを交互に読み取ります。常に <b>1対1</b> での照合となります	サポート
1対N (1:N Checking)	最初に照合元バーコードを読み取ります。以降読み取るバーコードは照合対象となります。 <b>1対多</b> の照合となります	サポート
Lookup テーブル参照 (Lookup Table)	照合元となるバーコードリストをMS916/MS926に保存し、そのリストを元に照合を行ないます。 <b>多対多</b> の照合が可能です	
Disable	照合モードを無効にします	

## 1対1照合 - 1:1 Checking

1対1でのバーコード照合を行ないます。以下の追加オプションを指定することができます。

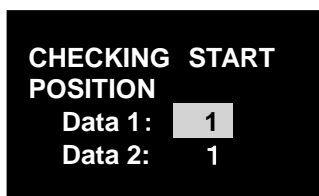
### •CHECKING START POSITION … 照合開始位置

各バーコードデータの照合開始位置を変更することができます。Data1は「照合元バーコード」、Data2は「照合したいバーコード」です。

Data2に”Any”を設定した場合、部分一致(Data1と同じ文字列が存在すれば位置や前後の文字に関係なく一致)が照合条件となります。

例:照合元バーコード「ABCDEFGH」、照合したいバーコード「1234ABCDEFGH」

- Data1: 1、Data2: 1の場合 → 一致しない
- Data1: 1、Data2: 5の場合 → 一致する

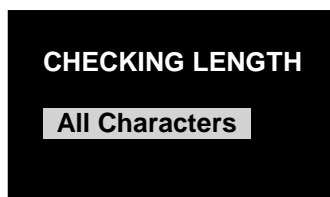


### •CHECKING LENGTH … 照合文字数

1文字-255文字の間で照合するデータの文字数を変更することができます。これはCHECKING START POSITIONで指定した開始位置からの文字数となります。“All Characters”を選択した場合、完全一致が照合条件となります。

例:照合元バーコード「ABCD」、照合したいバーコード「ABCDEFGH」

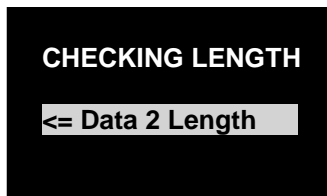
- All Charactersの場合、一致しない
- CHECKING LENGTH 4の場合、一致する



## •CHECKING LENGTH(オプション) … 照合条件

照合アルゴリズムを変更することができます。これは CHECKING START POSITION の Data2 が“1”のときのみ、CHECKING LENGTH 設定後に追加で表示されます。このオプションでは、バーコードデータの照合前に、照合元バーコードに対する照合先バーコードの文字数を確認します。その文字数が、このオプションに一致した場合、バーコードデータの照合を行います。

この機能は FW Version が V0.24 (MS926)または V.069(MS916)以降でサポートされます。



例:照合元バーコード「ABCD」、照合したいバーコード「ABCD1234」

- <= Data 2 Length の場合、一致する
- = Data 2 Length の場合、一致しない
- < Data 2 Length の場合、一致する

例:照合元バーコード「ABCD」、照合したいバーコード「ABCD」

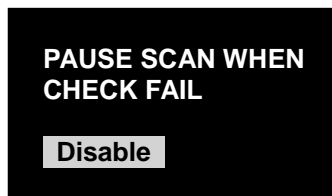
- <= Data 2 Length の場合、一致する
- = Data 2 Length の場合、一致する
- < Data 2 Length の場合、一致しない

照合アルゴリズム	詳細
<= Data 2 Length	照合先バーコードの文字数が、照合元バーコードの文字数と同じか多い場合にデータの照合を行います。 ※標準値
= Data 2 Length	照合先バーコードの文字数が、照合元バーコードの文字数と同じ場合にデータの照合を行います。 (完全一致相当の照合)
< Data 2 Length	照合先バーコードの文字数が、照合元バーコードの文字数より多い場合にデータの照合を行います。

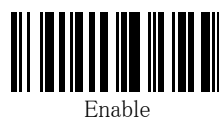
### •PAUSE SCAN WHEN CHECK FAIL … 照合不一致時の動作制限

この機能を Enable(有効)にすると、照合の不一致時にトリガーボタンを一時的に無効化し、次の読取り動作を制限することができます。トリガーボタン無効の状態から復帰するには本体側面の [ダウンボタン] を押下してください。デフォルト設定は Disable(無効)です。

この機能は FW Version が V0.22(MS926)または V.067(MS916)以降でサポートされます。



注 次のバーコードを読み取ると、画面操作を行わずに直接オプションを選択可能です。



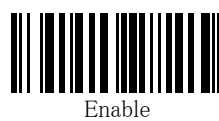
### •CHECKING SCREEN INDICATOR … 照合 O×表示

この機能を Enable にすると、照合の結果が文字ではなく、分かりやすい O×形式で表示されるようになります。

この機能は FW Version が V0.23(MS926)または V.068(MS916)以降で使用できます。



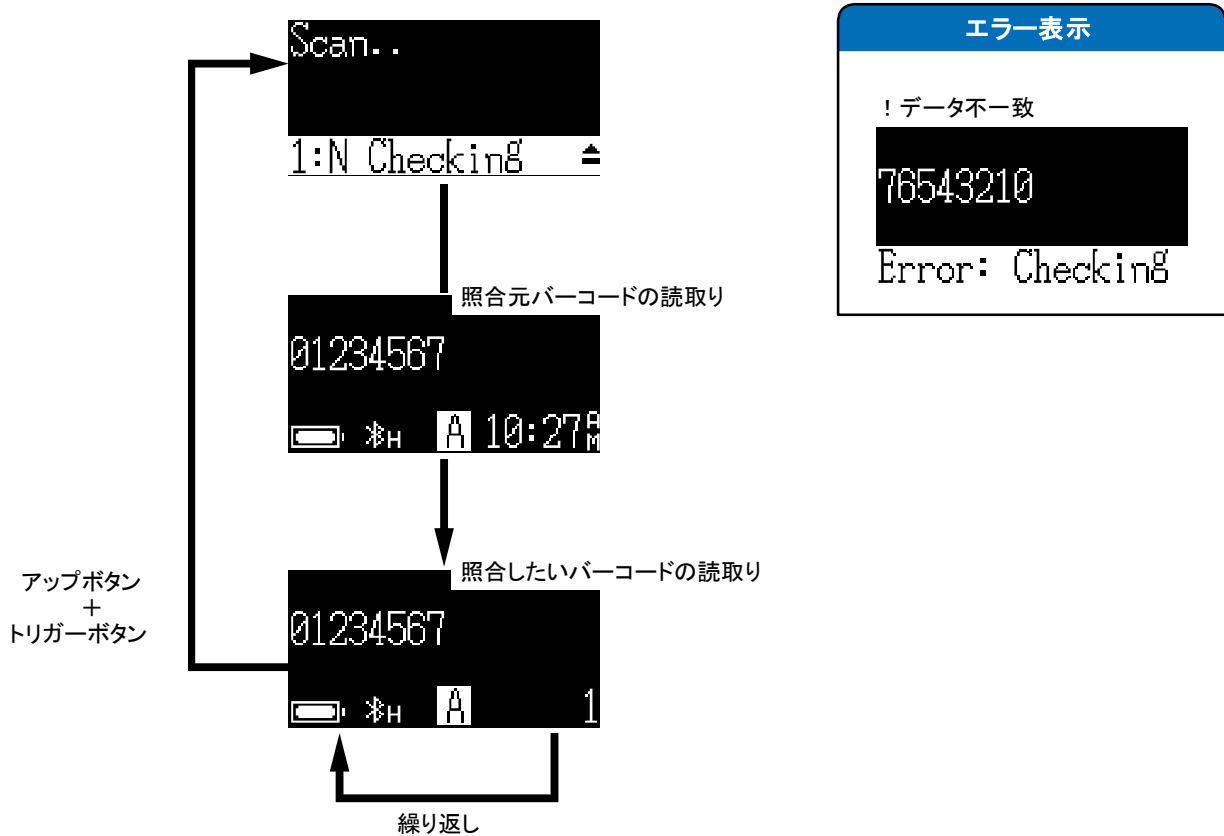
注 次のバーコードを読み取ると、画面操作を行わずに直接オプションを選択可能です。



## 1対N照合 - 1:N Checking

1対多でのバーコード照合を行ないます。この機能で使用可能な追加オプションについては、1対1照合の項目を参照してください。

照合の途中で照合元バーコードデータを変更したい場合は、[トリガーボタン]押しながら[アップボタン]を押下します。



1:N照合 の画面チャート

## Lookup テーブル参照 - Lookup Table

多対多でのバーコード照合を行いません。この機能を使用するには、事前に照合元バーコードリスト(以下、参照テーブル)を作成し、MS916/MS926 ヘダダウンロードしておく必要があります。

参照テーブルは、以下のフォーマットで作成してください。

- ファイルフォーマット:テキストファイル(Shift-jis エンコード)
- ファイルサイズ:256 キロバイト以下
- 区切り文字:改行(CR または CR+LF)
- ソート順:昇順(記号/数字→英大文字→英小文字)

注 参照テーブルのソート順を間違えると照合することができなくなりますのでご注意ください

ソート順①	照合可否	ソート順②	照合可否	ソート順③	照合可否
()*+	OK	6789	OK	ABCD	OK
1234	OK	()*+-	NG	abcd	OK
6789	OK	1234	NG	()*+,	NG
ABCD	OK	ABCD	OK	1234	NG
abcd	OK	abcd	OK	6789	NG

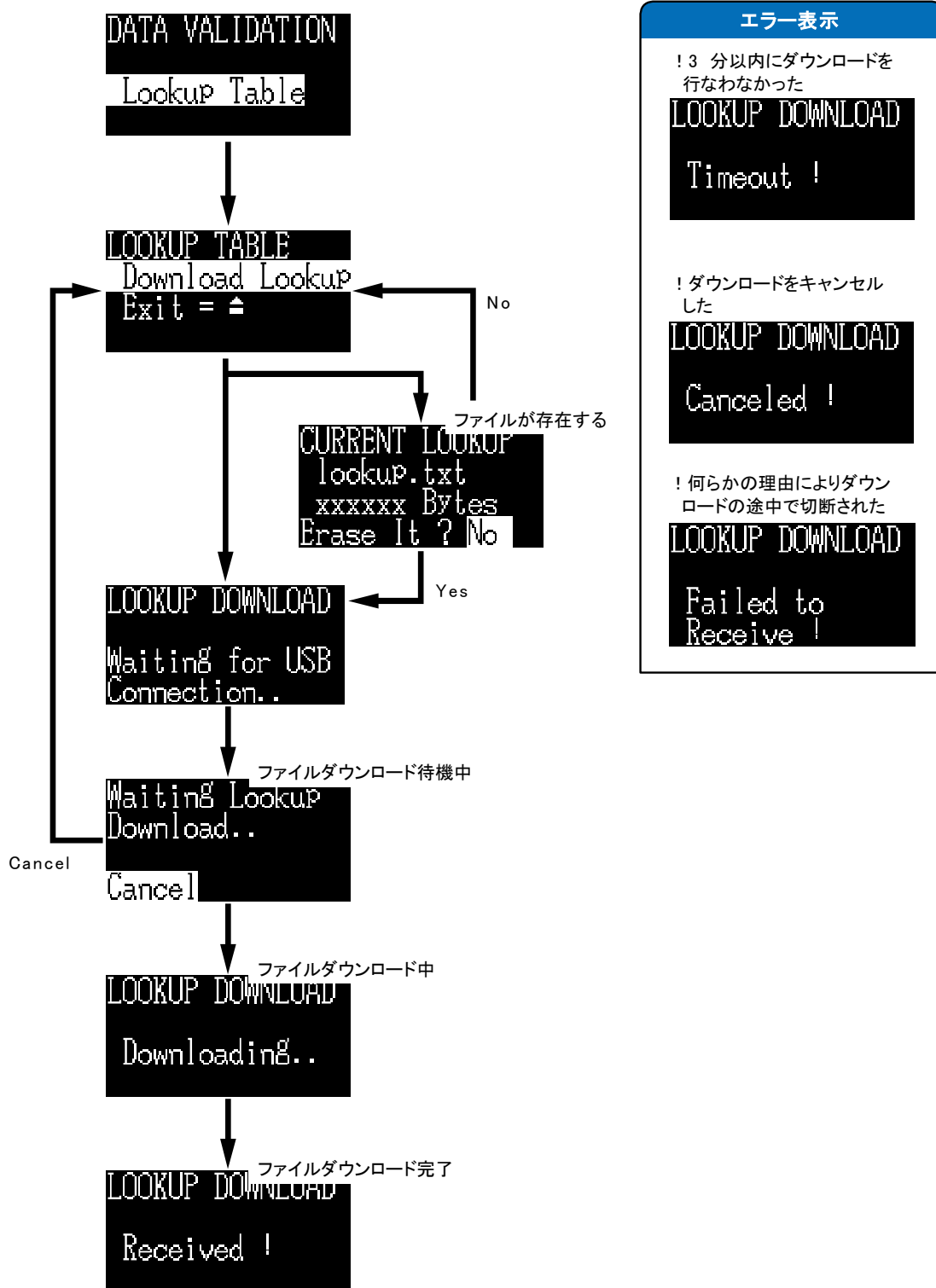
参照テーブルのダウンロードを行なうには、パソコンへの USB 接続と専用ドライバのインストールが必要です。(Windows10 ではドライバが自動的にインストールされる場合があります)

注 ドライバのインストール方法については、別途「USB 仮想 COM ドライバインストールマニュアル」をご参照ください。ここではドライバのインストールは正常に完了していることを前提としています。

注 参照テーブルのダウンロードに「TeraTerm」を使用しています。本ソフトウェアはフリーウェアです。本ソフトウェアのご利用はすべて自己責任となります。本ソフトウェアを使用して発生したいかなる損害も弊社では負いかねます。

TeraTerm 公式 <https://ja.osdn.net/projects/ttssh2/>

動作確認バージョン Version 4.84



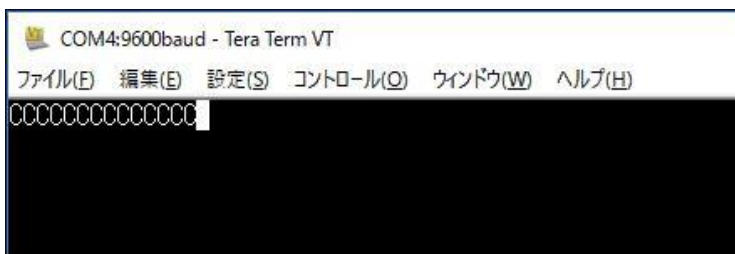
参照テーブル ダウンロード時 の画面チャート

- ① スキャナを操作して DATA VALIDATION→Lookup Table→Download Lookup を選択します。
- ② Waiting for USB Connection 画面で、USB ケーブルを使用してスキャナとパソコンを接続します。
- ③ デバイスマネージャーでスキャナが接続されている COM ポートを確認します。

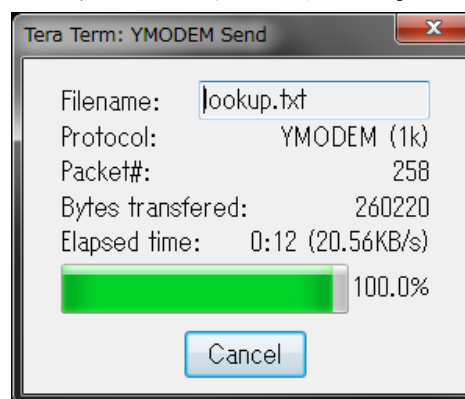
- ④ TeraTerm を実行します。
- ⑤ “シリアル”を選択し、“ポート”にスキヤナの使  
用している COM ポートを選択し、OK ボタンを  
クリックします。



- ⑥ 接続が完了すると TeraTerm の画面に「C」が表示され続けます。



- ⑦ TeraTerm の上部メニューから File (ファイル) → Transfer (転送) → YMODEM → Send (送信) をクリック  
します。
- ⑧ ファイルの選択画面が表示されますので、作成した参照テーブルファイルを選択してください。
- ⑨ ファイルの送信が開始します。



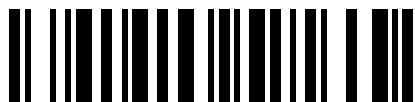
- ⑩ ファイルの送信が完了すると、スキヤナの画面に Received! のメッセージが表示されます。
- ⑪ ファイルの送信完了後は、メイン画面で参照テーブルと読み取ったバーコードの照合が使用できま  
す。



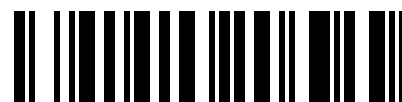
## ビープ音量、バイブレーション設定について

・以下の設定バーコードをスキャンすることでビープ音の音量が変更可能となります

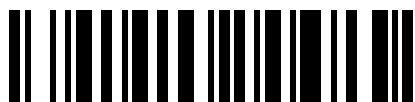
ビープ音量設定(下線ありはデフォルト設定)



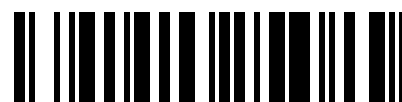
ミュート (無音)



小



中



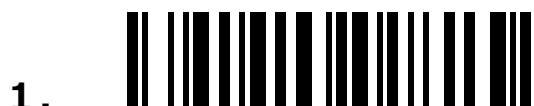
大

## 照合時の動作設定例(音・バイブレーション)

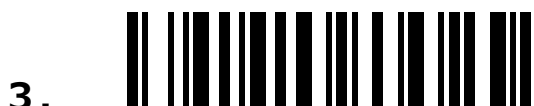
お使いなる環境に合わせて、音とバイブレーションの動作を設定することができます  
この設定は FW Version が V0.23(MS926)または V.068(MS916)以降で使用できます

設定例1……音とバイブレーションで照合、照合結果を知らせる

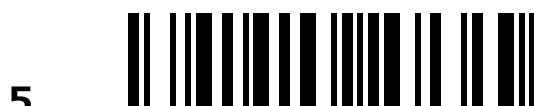
以下のバーコードを順にスキャンして下さい



バイブレーション ON



ネットワーク接続確認時  
(ビープ音)



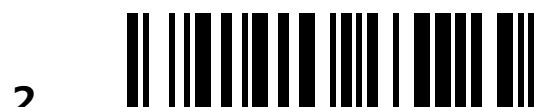
設定確定時  
(ビープ音)



電源 ON 時  
(ビープ音+バイブ)



電源 OFF 時  
(無音)



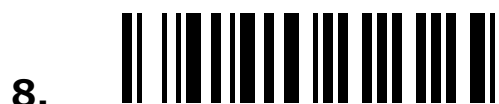
読み取り OK 時  
(ビープ音+バイブ)



トリガボタン押下時  
(ビープ音)



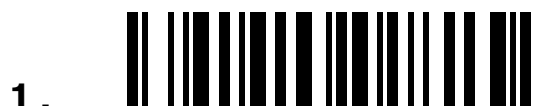
照合 OK 時  
(ビープ音+バイブ)



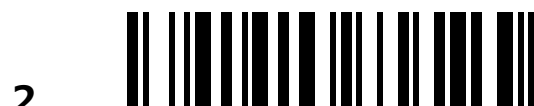
照合 NG 時  
(ビープ音+バイブ)

## 設定例2……バイブレーションで照合、照合結果を知らせる

音を出せない環境でのご利用におすすめの組み合わせ設定です  
以下のバーコードを順にスキャンして下さい

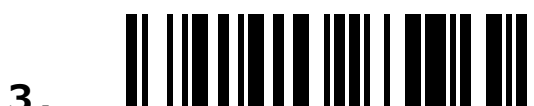


バイブレーション ON



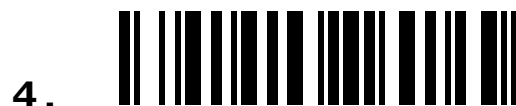
読み取り OK 時

(バイブ)



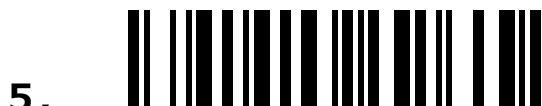
ネットワーク接続確認続時

(バイブ)



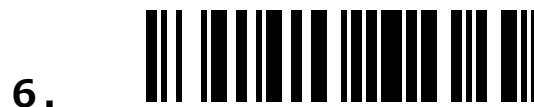
トリガボタン押下時

(無音)



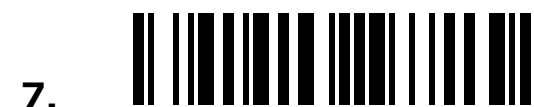
設定確定時

(バイブ)



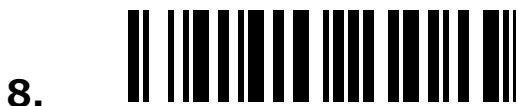
照合 OK 時

(バイブ)



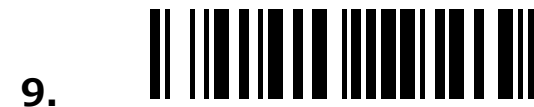
電源 ON 時

(バイブ)



照合 NG 時

(バイブ)



電源 OFF 時

(無音)